



愛知県教育委員会 川原馨教育長様

2025年12月4日

請願人 行政を考える住民の会
事務局 宮崎邦彦

連絡先 〒
請 願

学校、県教委において、保護者等からの相談について、「カスハラ」要求としないための、実態調査、これまでの記録の分析、検証、今後の対応に向けて等を求める請願

請願の趣旨、理由。

- 1 保護者対応、5回目から弁護士・・・都教委がカスハラ対策指針案（2025年11月 配信）から、

東京都教育委員会は、2025年11月6日、教職員に理不尽な要求をする保護者への対応を定めたガイドラインの骨子案を公表した。

面談は平日の放課後30分以内を原則とし、通話も含めて録音を行うなど、具体的な対策が盛り込まれている。

とある。

以下、保護者対応に関する連載記事が出る。

- 2 終わらない保護者対応「心が折れた」（2025年12月1日朝日新聞）学校と親 上（連載）

3時間続く苦情、深夜も■校長からも責められ休職

記事には『別のクラスにして』と校長に頼んだのに！」校長に確認するとそんな約束をした覚えはないという。・・・平行線に苦情は延々と3時間にあまり続いた。とある。

○3時間続く苦情、深夜もということについては、管理職から、長時間労働、勤務（残業）、「インターバル」を置くこと、であることを、苦情の相手に明確伝えること。が求められる。さらにいうなら、あらかじめ明確にしておくことが必要ということである。

記事から、元校長は「外部窓口を設けるだけでは解決しない。保護者の困り感と学校の困り感を両方理解して、信頼回復する仕組みを整えるシステムが必要だ」と話す。とある。

- 3 記事には「ICT（情報通信技術）支援員や地域移行後の部活指導者など、教員以外へのクレーム対応をどこで引き受け、どこが責任を持つのか」という問題が、今後は出てくるのではないか」とある。
- 4 「教員不足の要因はいろいろあるが、一番大きな課題は保護者対応ではないか。」とある。
- 5 県教委、各教委において、現在保護者対応について、どのようになっている

のか、不明であるが、いかなる実情、実態があるのか、明らかにするところから、今後、どのような仕組み等にするのか、求められているといえる。

- 6 校長と怒鳴り合い こども守りたいだけ（2025年12月2日朝日新聞）
学校と親 中から、

攻撃してくる人はみんな・・・恐れる教員は少なくない。

保護者の気持ちもわかる。・・・「学校の動きが見えない」とある。

保護者の意図は？ 初期対話が大切（2025年12月3日朝日新聞）

学校と親 下 立命館大名誉教授野田正人から、「相互不信になってこじれ
しまうと・・・子どもにも影響が出ます」とある。

「大きなトラブルになるケース初期の対応で見過ごしたり、心ない発言でこ
じらせたりして」とある。

「保護者が訴えてきた時に、保護者の意図をしっかりと汲んで・・・」とある。

- 7 各校のスクールカウンセラーや・・・情報共有して話し合えば校内でも簡単な
アセスメントができる。各校1人ずつ、常駐させてほしい。とある。

- 8 学校、保護者が、自らの意見・意図を、文書化等にして、示す余裕があれば
と思う。学校においては、パソコンや、タブレットでのやり取りはできないの
かと、思う。

双方が対面して話し合うことも必要であるが、文面、文書をみながら、双方
の意見等について確認していくということができたらということである。

請願事項

- 1 まず、各学校の教職員の保護者対応における、実情、実態を把握すること。
（専門の企業、機関に依頼すること）
- 2 現在、（保護者→職員）（職員→保護者）理不尽、もしくは、意思疎通ができないで
いる事例についての、分析検証、その集約を求める。
- 3 集約事例についての、分析検証の報告を公表すること。
- 4 各学校、県教委、各教委、一人一人ができる保護者対応、範囲（体制や、勤務時間
等）について確認をすること。
- 5 各学校、1人以上の常勤スクールカウンセラーを、配置すること。
- 6 教職員の「長時間勤務 持ち帰り残業も含む」改善の取り組みを、明確にすること。
1の追加として、（もしできることなら、できない場合はその理由を明確にすること）、
- 7 以前、公開請求において、刑事事件になったと記憶する、事案についての分析検証
を行うこと。

引用した、資料は必要に応じて提出する。

口頭意見陳述希望